

2020 年度第 4 回情報教育研究委員会情報専門教育分科会議事概要

I. 日 時：令和 3 年 2 月 26 日（金）16：00~18：00

II. 場 所：Zoom 会議室

III. 出席者：大原主査、佐野委員、高田アドバイザー、斎藤アドバイザー
（事務局）井端事務局長、野本

IV. 議事内容

1. 新しい価値の創造を目指す PBL 授業の普及・推進方策について、産学連携人材ニーズ交流会で提案するための報告資料・図の検討を進めた。

- ・ 社会が捉えている問題は、脱炭素社会、健康社会といわれている。
- ・ 包括連携協定などを大学と企業が結び、Society5.0 に向けた取組みも開始されている。
- ・ 学内でプロジェクトチームを組む学びができるよう、教育で取組む要素・条件などの整理ができないか。
- ・ 多様性、心理的安全性を担保するマネジメントができるかが課題ではないか。
- ・ 多様性のマッチングに対応できる企業がまだ少なく、どのようなチームづくりをするかが課題ではないか。
- ・ 何を目標にどのように導くのが課題であり、学生の学び・訓練するレベルを考え、PBL により社会に出てスキルを持てることを期待したい。
- ・ 副専攻科目などで小さな多様性から始めて、他大学・海外大学との協働を今後検討する中で、教員は段階的に輪を広げてはどうか。
- ・ 失敗を経験して成長させる教育を行ってはどうか。
- ・ 規模の大中小は違うが、社会を授業に組入れる大社接続ができないか。
- ・ PBL によりコミュニケーション不足が改善できるなどの授業目的として考えてはどうか。
- ・ 社会の資源を取入れ、社会の問題を捉える教育が求められているのではないか。
- ・ 物事を考え、取組み、人間的に作り上げる考え方などの学びの経験から多様性の見方を育成することが求められるのではないか。
- ・ 失敗しても咎めない学びが必要ではないか。
- ・ 企業が賛同するため大学として魅力の発信は、より積極性を持った学生を育成することではないか。
- ・ 学生の議論を企業が聞きながら、適宜否定しないよう配慮してコメント意見を出してもらう必要がある。
- ・ 世界の中で日本が埋没している中で、従来の教育では十分でない。
- ・ テーマ、手段、プレゼン、システムなどの多様性が考えられ、特に、テーマの多様性が重要であり、アイデアを潰さないコミュニケーション、自由度、温かさが大切ではないか。
- ・ 評価の仕方を変え、価値がないと思われるレベルのものから何かにアイデアを見出すこと、全員が出すアイデアから否定せずに、それぞれの価値や可能性を考えさせてはどうか。
- ・ サイトの説明図は、大社接続・連携 PBL 支援プラットフォームを真ん中にして、大学、企業、社会、学生がまわりを囲む形で整理することにした。

V. 今後のスケジュール

3 月 5 日（金）の産学連携人材ニーズ交流会で提案することになっている。